

「東山梨教育研究第56号」の発刊に寄せて

甲州市教育委員会 教育長 保坂 一仁

「東山梨教育研究第56号」の発刊にあたり、東山梨地域の教育力向上のために日々ご尽力されている、先生方をはじめ教育関係者の皆様に、心より感謝と敬意を表します。

新学習指導要領の全面実施が迫ってきました。小学校における外国語科の新設や道德の教科化、主体的・対話的で深い学び等、学校現場での準備がすすんでおります。その中で中央教育審議会が答申した、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」などは、今後の教育の方向性を的確に示していると言えます。「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」では、激しく変化をしていく時代に対応できる、教員の資質の向上と「教員は学校で育つ」の考えにたった研修体制の構築を、また、「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」では、多様化・複雑化する子どもの状況や新たな教育諸課題に対応をするため、専門性に基づくスタッフが、様々な業務を連携・分担して職務を担うチーム体制の構築を、そして、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」では、時代の変化に対応するため、学校を核として地域と連携・協働した学校づくりの必要性を答申しています。どれも、これからの社会の進歩や変化が速まる中、学校や教員が直面し、対応していかなければならない改革が述べられています。

さて、東山梨教育協議会の研究の成果を収録した「東山梨教育研究」も、今回で56号目を数えます。教員をはじめとした東山梨に集う多くの教育関係者により紡ぎ続けられたこの集録は、いつの時代も、関係者の努力や思いを収めた資料的・記録的価値はもとより、東山梨の子どもたちのよりより成長のために、教育三者とPTAや行政などの教育関係各者が、主体的、対話的、協働的、自治的に連携し、「OJTなどを基本とする教員の資質の向上に資する組織的な研究活動」「専門性にもとづいた教員チームの構築」「学校を開き、保護者や地域の方々とともに進める教育活動」などを行ってきた歴史の積み重ねであることに改めて気づかされます。これは、今まさに進められている教育改革と意図を同じにしたものであり、そのような歴史に思いをはせるとき、先達の先見性と東山梨教育の歴史的な重みを感じずにはいられません。

「論語」述而篇に「子曰く、我生れながらにして之を知る者に非ず。古を好み、敏にして以て之を求めたる者なり。」という言葉孔子のような君子も道を求める際、昔からの教えを懸命に学んだように、この「東山梨教育研究」が教職員の皆様に大いに活用されることを願っております。

結びに、東山梨教育と教育関係各位のご尽力に敬意を表すとともに、益々のご発展をご祈念申し上げます。